

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、日常生活が少しずつ元に戻り始めています。各校においては、修学旅行や合唱コンクール等の学校行事が、十分な感染防止対策のもと行われ何よりと感じています。

今回は、昨年度末に各校に配布したモバイル Wi-Fi ルータを活用した北中学校と葛生南小学校の 2 校の実践を紹介します。各校でもすぐに取り組める教育活動です。参考となれば幸いです。

○合唱コンクールをライブ配信(北中学校)

北中学校では、各学年の歌声を聴き合い、感動を分かち合いたいとの思いから、全校生徒参加の合唱コンクール(北星祭)を 11 月 3 日、文化の日に佐野市文化会館で実施しました。

佐野市文化会館の収容人数に制限があるため、会場には生徒及び職員しか入場できない状況にあり、会場には入れない保護者が視聴できるように、ライブ配信を思いついたとのこと。配信に際し YouTube を利用したのは、利用が一般化していることとともに、保護者の通信費負担を減らせるのではないかと考えたとお聞きしました。



当日視聴した 3 年生の保護者から「カメラが固定され、映像としては十分とはいえませんでした。音声ははっきりと聞こえました。帰宅した息子と中学校最後のコンクールについて話題を共有できたことは何よりでした。」との話を聞くことができました。

学校外からの配信であったこと、また、YouTube を利用しての配信は初めての取り組みであったことから、様々なご苦労があったようです。

配信の中心となった教頭先生から「まずは、全学年参加という形で合唱コンクールが開催できたことが何よりでした。校長先生から YouTube を使いたいと聞いたときにはどうしようとの思いもありました。最初はうまくいかず何度も情報教育アドバイザーさんから助言をいただきました。前々日に会場にモバイル Wi-Fi ルータを持参し、テスト送信がうまくいったときにはほっとしました。」との話をお聞きしました。

なお、北中学校では学習者用の端末(Chrome book)を配信

に利用しました。端末を固定するため、ビデオカメラ用の三脚を利用し、写真にあるような



専用台を自作しました。この台を使うことにより、撮影もスムーズに行えたそうです。

今回の取り組みについて校長先生から次のようなお話をお聞きしました。

「来年度以降は、以前のような保護者も入場しての北星祭となることを期待しています。コロナ禍であることから、このような取り組みになりましたが、保護者からも好評であったとお聞きすることができました。また、配信に初めて YouTube を利用しましたが、保護者限定の配信は思ったより簡単だったこととともに、YouTube により『アーカイブ配信』が行えたことは大きなメリットでした。北星祭終了後もしばらくの間『アーカイブ配信』を行いました。保護者の皆様は『アーカイブ配信』により、都合の良い時間に視聴できたようです。いつでも視聴できることから、いずれはオンラインによる反転学習等にも応用できるのではないかと思います。」

お話をお聞きしながら、『やってみてわかるこ

と』があることを改めて感じました。そして YouTube での配信に様々な可能性を感じることができました。

○端末を持参して校外学習（葛生南小）

葛生南小学校の 2 年生が 10 月末の生活科の授業（校外学習）で 1 人 1 台端末とモバイル Wi-Fi ルーターを利用しました。

最初は端末をカメラとして利用することを考えての計画でしたが、教頭先生からのアドバイスもあり、モバイル Wi-Fi ルーターを持参しての学習となりました。校外学習に備え、交通機関の利用の仕方やインタビューの仕方等の他、モバイル Wi-Fi ルーターを含めた学校外での端末利用の方法と注意点についても確認したそうです。

当日は、「さーのって号」を利用し、葛生地区にある図書館を全員で訪問し、その後、グループに分かれて葛



生化石館、葛生交番、吉澤記念美術館を見学しました。各見学場所で、児童は普段見ることのできない場所等で思い思いの写真を撮影したり、化石館では、解説に示された QR コードを端末で読み、解説動画を視聴したりするなど今までとは一味違った校外学習を行うことができましたようです。

担任の先生から「たくさん歩いたので児童はとても疲れたと思いま



す。学校に着いた途端に『疲れた』ではなく『楽しかった』という言葉が出てきたのには驚きました。校長先生から『子供たちの顔が本当に生き生きしていたよ。』とのお言葉をいただきました。とても嬉しかったです。準備の段階から教頭先生をはじめ先生方からたくさんの助言をいただき、様々な苦勞もありましたが、報われました。化石

館で QR コードを読み取れることが事前にわかったので端末の持参を考えましたが、個々が思い思いに写真を撮るだけでも、児童の主体的な学びにつながり、学びが深まることを感じたような気がしています。」との話しを聞きました。今回の感動を今後の授業等につなげていこうとする担任の思いを感じました。

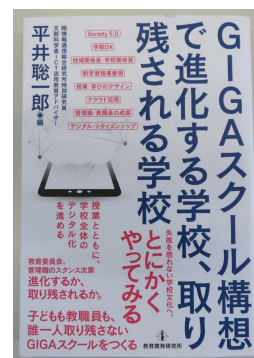
今回の取り組みについて校長先生からは「本人から『校外学習に端末を持参させたい』という話を聞いたときには不安な思いもありましたが、学校に帰ってきた子供たちの笑顔と歓声を聞いて『持参させて良かった』という気持ちになりました。先生方には日頃から『失敗を恐れず、様々なことにチャレンジして欲しい』という話をしています。ICT 活用に関しても同じ事がいえると思います。『やってみてわかること』を児童も先生も大切にしたいと思っています。今回はそんな取り組みができたと思っています。」との思いを聞かせていただきました。

2 年生はこの後、今回撮った写真をもとに校外学習のまとめを行い、『みなみっ子学習発表会』に向け、準備を進めていくそうです。

『みなみっ子学習発表会』が児童主体の深い学びを感じるような会となることを期待したいと思います。

★図書を紹介★

教育センターでは、GIGA スクール構想の実現に向け、様々な情報の入手とともに関係書籍の購入も行っています。今回紹介するのは、校長先生はもちろんですが、先生方にもお勧めの一冊です。タイトルはシヨッキングですが、文科省、大学、小中学校等の関係者が『GIGA スクール構想』についての思いを述べたもので『1 人 1 台端末配備の目的』を再確認することができます。興味がある方は是非ご一読を。



(文責 教育センター所長)